

成績評価の客観性および厳格化について ～ガイドラインとアセスメント・ポリシーの策定～

2018年12月17日(月)16:30～18:00

福岡工業大学FD研修会E棟3階Cultivation Site R1

田中正弘(筑波大学)

目次

- 本発表の目的
- 成績評価に関する課題
- 成績評価ガイドライン
- アセスメント・ポリシー
- 厳格な成績評価
- 貴学のガイドラインとアセスメントポリシー
- まとめ

本発表の目的

- 日本では、成績評価は大学教員の裁量にほぼ全て委ねられているため、**評価基準が不統一、かつ曖昧**であることが多い。
- よって、学生の「学習到達度」(学士力)を適切に評価できず、社会の信頼を失いかねない。
 - 学生の不満(不公平感)も蓄積される。
- そこで、成績評価の妥当性と信頼性の向上のために、「ガイドライン」に沿った、組織的な評価の構築および実施の徹底を提案したい。

成績評価に関する課題

成績評価に関する課題

- 成績評価の結果を全ての科目を通して眺めると、驚くほど結果にバラツキが見られる。
- このことは、どの大学においても、共通の問題として認識されていると思う。
 - 例えば、北海道大学では、「成績評価の公平性を確保し、学生および第三者に対する説明責任を果たす」という方針に則り、成績分布とGPの平均値をWEBで公開している。
 - <http://educate.academic.hokudai.ac.jp/seiseki/GradeDistSerch.aspx>

北海道大学成績分布WEB公開システム

北海道大学 成績分布WEB公開システム
- 成績評価分布状況表 -

※2005年度以降の学部入学者の履修科目を対象としています。
ただし、全学教育科目の2006年度第1学期分は、2006年度入学者を対象としています。
※無欠=評価せず（2006年度入学者から無欠は「不可」評価となりました。）
※2015年度以降の学部入学者から新GPA制度の導入により、11段階の成績評価方式が採用されています。
5段階評価と11段階評価が混在する科目についてはそれぞれの平均値を2段階おこなっています。
※履修者5名以下の科目は除いています。
5段階評価と11段階評価が混在する場合、履修者5名以下の評価のみを除きます。

評価年度・学期	課程	開講学部	データ種別	表示内容	科目名検索	科目数
2017年度 2学期	学士課程	教育学部	授業科目・担当教員別	全て		71

※各科目の上段は11段階の学生、下段は5段階評価の学生をしめす。

表示件数: 30件再

授業科目名	講義題目名	クラス	担当教員名	履修者数	A+(%)	A(%)	A-(%)	B+(%)	B(%)	B-(%)	C+(%)	C(%)	D(%)	D-(%)	F(%)	GPA
					秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)							
1 教育学概説	教育の歴史		近藤 健一郎	59	13.8	5.1	13.6	11.9	11.9	11.9	8.8	20.3	0.0	5.1	0.0	2.95
2 教育学国際講義	ESD最終報告会2017		水野 眞佐夫	15	13.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.04
3 教育学特別講義	Education for Sustainable Development		Tyrel Eckelson	15	0.0	20.0	33.3	26.7	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.49
4 教育基礎論講義	学校経営論		藤原 岳司	28	7.1	3.6	17.9	14.3	17.9	17.9	3.6	0.0	7.1	0.0	10.7	2.75
5 教育基礎論講義	教育思想史		白水 浩徳	23	39.1	21.7	21.7	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7	3.59
				9		11.1		11.1		0.0		0.0		77.8		0.78
6 教育基礎論講義	近現代学校史		近藤 健一郎	32	6.3	15.6	21.9	9.4	28.1	3.1	6.3	6.3	0.0	0.0	3.1	3.21
				9		11.1		0.0		11.1		11.1		66.7		0.78
7 教育基礎論講義	生活指導論		浅川 和幸	52	0.0	11.5	13.5	15.4	21.2	25.0	0.0	7.7	0.0	0.0	5.8	2.93
				9		11.1		11.1		11.1		0.0		66.7		1
8 教育基礎論調査実習	教育行政・学校経営調査実習2		藤原 岳司	7	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	3.17
9 教育社会科学講義	教育社会学		小内 透	42	2.4	2.4	16.7	16.7	7.1	28.6	4.8	11.9	0.0	2.4	7.1	2.71
10 教育社会科学講義	教育福祉論		松本 伊智朗	53	0.0	9.4	9.4	34.0	34.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.3	2.92
				6		16.7		16.7		33.3		0.0		33.3		1.83
11 教育社会科学講義	生涯学習論		宮崎 隆志	130	9.2	13.1	10.0	13.1	23.1	15.4	3.1	3.1	0.0	0.0	10.0	2.96
				11		9.1		0.0		18.2		0.0		72.7		0.73
12 教育社会科学講義	青年期教育論		辻 智子	38	5.3	21.1	13.2	7.9	39.5	7.9	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6	3.24

中央教育審議会答申の指摘

- 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日)は、成績評価の現状と課題について、下記の指摘をした。
 - 我が国の大学は、成績評価について、個々の**教員の裁量に依存**しており、**組織的な取組が弱い**。従来のみまでは、「大学全入」時代の学生の変容に際し、学生確保という経営上の要請も相まって、なし崩し的に安易な成績評価が広がってしまう恐れがある(26頁)。

具体的な改善方策

- 答申が提示する具体的な改善方策とは、
 - － 教員間の共通理解を土台に、**成績評価基準**を策定し、その明示について徹底する。
 - － 成績評価の結果について、基準に準拠した適正な評価がなされているかの、**組織的な事後チェック**を実施する。
 - － 成績評価の通用性を高める策として、学内の教員以外の**第三者の参画**を求める仕組みを検討する(27頁)。

改善のスリー・ステップ

1. 成績評価基準の策定と明示

- 成績評価基準を評価の「**ガイドライン**」として策定し、全教員で共有することが必要。

2. 組織的な事後チェック

- 同僚評価を中核とする点検制度（全学的な**アセスメント・ポリシー**）が必要。

3. 第三者の参画

- 他大学の教員による互助の精神が必要。

成績評価ガイドライン

お茶の水女子大学のガイドライン

レターグレードと評点区間、及び評価基準表

S (90点以上)	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A (90点未満から80点以上)	基本的な目標を十分に達成している。
B (80点未満から70点以上)	基本的な目標を達成している。
C (70点未満から60点以上)	基本的な目標を最低限度達成している。
D (60点未満不合格)	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

S評価を評価対象者の15%以内(履修者数が10人未満の場合は2名以下)に留める。

履修放棄によって評定できない場合はD(不合格)となる。

レターグレードで評定する場合の評点は、S=95、A=85、B=75、C=65、D(不合格)=55となる。

出典：http://www.ocha.ac.jp/education/info/about_grade.html

北海道大学のガイドライン

- 成績分布の基準(2012年度)

- 全学教育科目では、「秀」評価の目標値は「10～15%」、GPAの目標値は「2.45」、「評価の極端な偏り」の点検基準は「学期GPA平均値(2.45)±0.5」を目安とする。
- 【注】北海道大学は、平成27年度入学生から、新しいGPA制度(成績グレードを5段階から11段階へと変更)を適用している。

出典:北海道大学教務委員会(2013)「『秀』評価, GPA制度, 自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について, Q&A」(平成25年度教職員用), 3頁。

一橋大学のガイドライン

- 成績のグレードは, A・B・C・D・Fの5段階
- 最上位グレードのガイドラインとして, 「A評価の取得者数は, A・B・C評価取得者数の合計の3分の1以下とする」(一橋大学 2014: 19)
 - 適用除外科目は, ゼミ, 少人数(20名以下)科目, インターンシップ科目など

出典:一橋大学大学教育研究開発センター(2014)「教員用授業ハンドブック」(2014年度版)

横浜国立大学のガイドライン（1）

○ 「授業設計と成績評価のガイドライン」について

成績評価ガイドラインを検討するワーキンググループでは、他大学におけるガイドラインの調査や議論を重ね、ガイドラインのたたき台を各部局の先生方に提示し意見を収集しました。集まった意見をもとに、授業設計と成績評価のガイドラインの導入においては、全学的な「成績評価の基準表」と各教員が授業ごとに作成する「授業別ルーブリック」の導入を軸とすることになりました。本リーフレットでは、ガイドラインの要点を抜粋して紹介します。

ガイドラインの要点は3つあります

● 授業における、「成績評価の基準」を全学で統一します。

…教員間の成績評価への認識を統一し、学生が「秀」のレベルを認識できるようにします。

● 「電子シラバス」が変わります。（平成28年度春学期入力分から）

…授業外学修時間に学生が学修すべき内容を示すという項目の構成変更に加えて、授業の担当教員が「授業別ルーブリック」を入力するようになります。

● 授業ごとに「授業別ルーブリック」を導入します。

…ルーブリックとは、学生が何を学修するのかを示す評価の項目と、学生が到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標です。

出典：横浜国立大学(2015)「平成27年度授業設計と成績評価ガイドライン」, 2頁。

横浜国立大学のガイドライン (2)

成績評価の基準を全学で統一します

教育改善のPDCAサイクルに繋がる成績評価の実現に向けて、成績評価の基準を全学で統一します。

Q. 基準を設けて統一する目的は何でしょうか？

A. 教員間の成績評価の基準を統一することで、学生が成績のレベルを認識し、自発的に学修するようになることを目的としています。

Q. 成績評価の基準とはどのようなものですか？

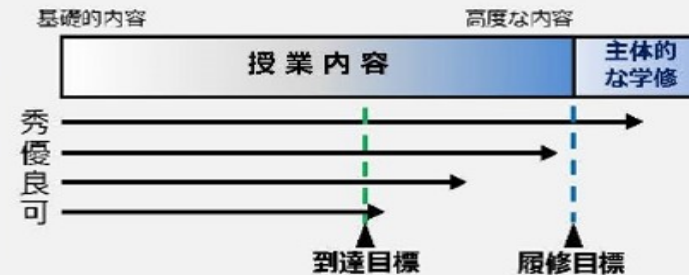
A. 授業の成績（秀・優・良・可・不可）と履修目標、到達目標との関係を示すものです。

「成績評価の基準表」（※電子シラバス上で学生にも示します）

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標と到達目標の概念を説明します。

履修目標	授業で扱う内容を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標	授業を履修した学生が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するにはさらなる学修を必要としている段階です。



基準の統一

- ・ 学生に対して授業の目標、成績評価の基準を明確にすることで学生が学ぶ方向が正しく設定できます。
- ・ 学生への成績評価の信頼性を高め、教育の質を保證することができます。

出典：横浜国立大学(2015)「平成27年度授業設計と成績評価ガイドライン」, 3頁。

横浜国立大学のガイドライン (3)

電子シラバスが変わります

成績評価の基準表と授業別ルーブリックの導入にあわせて、電子シラバスが平成28年度春学期入力分から変わります。

具体的な変更点を紹介します。

- ① **「授業外時間の学修内容」の項目を追加します。**
学生に、授業時間外に学修すべき内容を、明確に示すことができるようになります。
- ② **履修目標と到達目標の項目を分離します。**
履修目標と到達目標は、成績評価の基準表に対応しています。
- ③ **成績評価の基準表を、電子シラバス上で学生に示します。**
学生が成績評価の基準を明確に把握できるようになります。
- ④ **成績評価の項目を「成績評価の方法」「成績評価の基準」に分離します。**
成績評価の基準の入力には、「授業別ルーブリック」の作成機能を追加します。

ルーブリック入力画面
(イメージ)

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる (履修目標)	やや努力を要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を要する
評価項目A	評価基準 1 [水準]	評価基準 2 [水準]	評価基準 3 [水準]	評価基準 4 [水準]	評価基準 5 [水準]
評価項目B		履修目標		到達目標	
評価項目C					

出典: 横浜国立大学(2015)「平成27年度授業設計と成績評価ガイドライン」, 3頁。

ガイドライン策定を明示した大学

- 福井大学の平成28年度「年度計画」に、下記の文言が含まれている。
 - 多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン(アセスメント・ポリシー)を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。
- 同様の文言は、福島大学の「年度計画」(平成28年度)にも見られる。
 - 厳格な成績評価に基づいた卒業認定を行うため、学位授与の方針に定める諸能力を基準としたアセスメント・ポリシーの共有と各授業における成績評価基準の継続的な点検・改善を、FD(ファカルティ・ディベロップメント)を通して促進する。

出典:福井大学(2015)「平成28年度国立大学法人福井大学年度計画」, 1頁。

出典:福島大学(2015)「平成28年度国立大学法人福島大学年度計画」, 2頁。

アセスメント・ポリシー

文部科学省の定義

- 文科省の「用語集」(2012: 39)によると, アセスメント・ポリシーは以下のように定義される。
 - 学生の学修成果の評価(アセスメント)について, その目的, 達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。

二つの異なる解釈

- 文科省の定義(学修成果の評価)には, 二つの異なる解釈が見られる。
 - ① **科目の学修成果(成績)**の評価と解釈する。
 - アセスメント・ポリシーは, 成績評価のポリシーを意味し, 成績評価ガイドラインを策定することになる。
 - 主に国立大学に見られる動き。
 - ② **学位プログラム全体における学修成果(学士力)**の評価と解釈する。
 - アセスメント・ポリシーは, 学士力の質保証ポリシーを意味し, 教学IRなどを整備することになる。
 - 主に私立大学に見られる動き。
- ただし, ①と②の両方の実施が望ましい。

桐蔭横浜大学のアセスメントポリシー

	入学生	在学生	卒業生
機関レベル (大学全体)	各種入学試験	退学率除籍率 休学率 各種学生アンケート	学位授与率 就職率 就職分野別分布分析 卒業時アンケート調査 卒業後アンケート調査
教育課程レベル (学部・学科)	各種入学試験 入試区分別成績調査	GPA分布 成績分布 修得単位状況 学修行動調査 進級率(留年率) 各種外部試験 海外留学者数 インターンシップ参加者数	公務員試験合格数 進学率 教職免許取得数 教員採用試験合格者 臨床検査技師合格率 臨床工学技士合格率
科目レベル	基礎学力試験(プレースメントテスト) アンケート	出席状況 成績評価(単位取得率) 成績分布 授業アンケート	

出典: 桐蔭横浜大学(2018)「アセスメントポリシー」
(<http://toin.ac.jp/univ/overview/assessment/>)

いわき明星大学のアセスメントポリシー

	入学生	在学生	卒業生
機関レベル	<ul style="list-style-type: none"> 各種入学試験 満足度調査 	<ul style="list-style-type: none"> 学内スクール受講者数 課外活動状況 満足度調査 退学率 休学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 就職率 専門領域への就業率 進学率 満足度調査（卒業時） 卒業生へのアンケート調査 雇用者へのアンケート調査
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> 各種入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 成績分布状況 修得単位数 外部テスト 学修行動調査 ジェネリックスキル調査 進級率 転部転科率 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師国家試験合格率・合格者数 教員採用試験合格率・合格者数 公務員採用試験合格率・合格者数 日経225構成企業採用数 資格取得率・取得者数
科目レベル	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価（テスト・ルーブリック） 学修履歴（ポートフォリオ） アセスメントテスト 学外実習評価 成績分布状況 授業評価アンケート 	

出典：いわき明星大学(2018)「アセスメントポリシー」
 (http://www.iwakimu.ac.jp/information/assessment_policy.html)

京都女子大学のアセスメントポリシー

	評価対象	評価指標
機関（大学）レベル	大学における活動全体を通じた学修成果	<ul style="list-style-type: none">• ジェネリックスキル測定テスト• 就職率• 学生生活実態調査• 卒業時アンケート• 学修ポートフォリオ
学位プログラム（学科・専攻）レベル	学位プログラムとしての学修成果	<ul style="list-style-type: none">• ジェネリックスキル測定テスト• 卒業論文・卒業研究の成果• GPA• 学修ポートフォリオ• 免許・資格取得状況
科目レベル	科目ごとの学修成果	<ul style="list-style-type: none">• 各科目の成績評価• 授業アンケート

出典：京都女子大学(2018)「アセスメントポリシー」
(http://www.iwakimu.ac.jp/information/assessment_policy.html)

東北福祉大学のアセスメントポリシー

アセスメント・ポリシー(HPより抜粋)に基づく各レベルでの査定とフィードバックの流れ

東北福祉大学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関レベル(大学)・教育課程レベル(学部・学科)・科目レベル(授業・科目)の3段階で学修成果を査定する方法を定めています。

1. 機関レベル

学生の志望進路(就職率、資格・免許を活かした専門領域へ就業率及び進学率、等)から学修成果の達成状況を査定します。



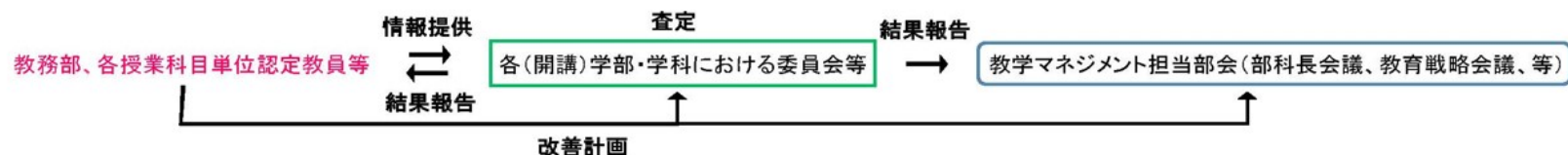
2. 教育課程レベル

学部・学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況(単位取得状況・GPA)から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を査定します。また、学年ごとの単位取得率・成績分布の状況から、学士力における汎用的技能と態度・志向性について、1年次における基礎、2年次における活用と実行、3年次における応用と定着、そして4年次での統合的学習、創造的思考の獲得状況を学修成果として査定します。



3. 科目レベル

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価、及び学生アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を査定します。



出典: 東北福祉大学(2018)「アセスメントの仕組みの概要」, 2頁。

岩手医科大学のアセスメントポリシー

- 医学部の評価方針(アセスメント・ポリシー): 抜粋

1. 講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
2. 知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価(レポート、スケッチ、段階的スキル・行動表と業務現場評価法、および自己進捗度表等を取りまとめたポートフォリオ)で査定します。
3. 筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
4. 評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、**その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直し**を行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。

出典: 岩手医科大学(2017)「評価方針(アセスメント・ポリシー)」

(<http://www.iwate-med.ac.jp/education/assessmentpolicy/>)

努力目標

- 文科省は、DP、CP、APの作成をそれぞれ義務化したが、四つ目のポリシーであるアセスメントは、努力目標とした（濱名 2016: 35）。
- しかし、やがて義務化されることは容易に想像できる。
 - アセスメントポリシーの整備が私学助成金の配分項目に追加される予定（平成30年度）。
- それでは、成績評価ガイドラインおよびアセスメント・ポリシーに基づき、どのように成績評価を厳格化すべきかについて考えてみたい。

出典：濱名篤（2016）「三つのポリシー（AP・CP・DP）をどう実質化するか—ガイドライン策定を受けて」『カレッジマネジメント』198, 34-38頁。

厳格な成績評価

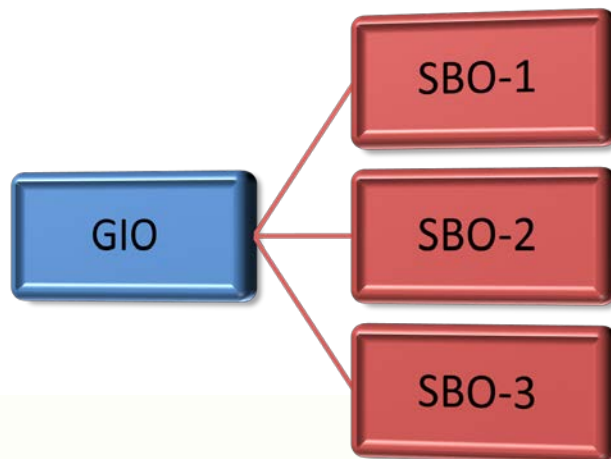
厳格な成績評価

- 「成績評価は到達度評価を基本とし、『**妥当性**』、『客観性』、『透明性』、『公正性』を徹底する」(北陸大学2017)。
 - 到達目標の設定の「妥当性」の担保は容易ではない。
 - そもそも、到達目標の設定が教員間で不統一であることが多い。
 - そこで、**到達目標**(Specific Behavioral Objectives: SBOs)、および授業の**目的**(General Instructive Objectives: GIO)の設定の仕方を考えてみたい。

出典:北陸大学(2017)「2018年度版北陸大学授業のガイドライン」

GIO&SBOs

- 授業の目的(GIO)とは, 期待する学修成果のことである。
- 到達目標(SBOs)とは, 学生が修得すべき知識・能力・態度などを領域ごとに記述したものである。
 - SBOsを全て達成すると, GIOを達成できたことになる。



SBOsの設定

- 到達目標 (SBOs) の設定を統一する。
例: SBOsは、「授業を履修した学生が**最低限身につける内容**を示す目標」(横浜国立大学 2015)とする。
- SBOsの難易度の設定を統一する。
例: 受講者の**8割以上が到達できる**であろう目標とする。
 - ただし, 科目の難易度によって, 到達できる割合は変化させる。
 - 科目の難易度は, **科目ナンバリング**で示す。

科目ナンバリング

- 科目ナンバリングは、科目の「分野＋難易度」で示す。
 - 分野:教育学(EDU)など
 - 難易度:100番台(学士入門), 200番台(学士初級), 300番台(学士中級), 400番台(学士上級)など
 - 例:EDU201:教育学の学士課程初級レベルの科目
 - 200番台である, この科目のSBOsは, 2年生の8割以上が到達できるであろう目標とする。
 - 仮に1年生が履修するとすれば, 7割程度しか到達できない目標とする。3年生ならば, 約9割とする。
 - 科目ナンバリングは, **学生にSBOsの難易度を知らせるツール**となる。
 - 担当教員は科目の難易度を勝手に変えられない。

点検のための評価

- 点検のための評価は，下記の三段階で行う。
 - ① 科目レベル
 - ② プログラムレベル
 - ③ 機関レベル
- 点検のための評価は，下記の2種類がある。
 - － 科目・プログラムレベルで毎年実施する「**モニタリング**」
(Regular Monitoring)
 - － 機関レベルで5～7年ごとに行う「**プログラムレビュー**」
(Periodic Reviews)

出典：大学改革支援・学位授与機構(2017)「教育の内部質保証に関するガイドライン」

科目レベルの点検

- 科目担当教員が下記の項目の点検を毎年実施し、点検レポート(A4で1枚)を作成する。
 - － 受講学生数(過去5年間との比較)
 - － 学生の学習到達度(特に成績分布の時系列変化)
 - － 学生や第三者などの意見に対する対応
 - － 優れた取組の検証
 - － 具体的な改善点のリスト
- 点検レポートの評価は、学科(またはプログラム)の評価委員会(仮称)が毎年行う。

プログラムレベルの点検

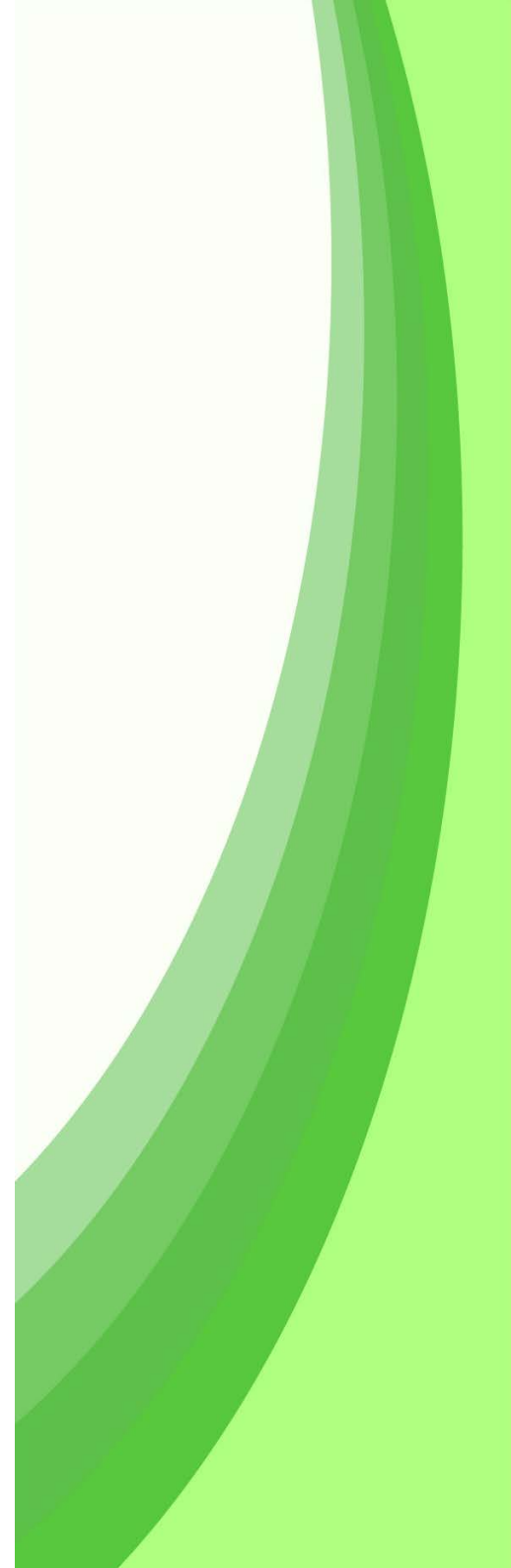
- プログラム点検委員会(仮称)が下記の項目の点検を毎年行い、点検レポートを作成する。
 - － 学生数(学年ごとに過去5年間との比較)
 - － 学生の学習到達度(学年ごとに点検する)
 - － 転学・退学者数(過去5年間との比較)
 - － 優れた取組の検証
 - － 具体的な改善点のリスト

【注】学生の学習到達度を可視化するシステムがあると点検が楽になる。
- 点検レポートの評価は、全学の評価委員会(仮称)が毎年行う。

機関レベルの点検

- 全学の評価委員会（仮称）が、下記の項目の点検を5～7年ごとに行い、点検レポートを作成する。
 - プログラムレベルのモニタリングが正しく機能しているか
 - 認証評価の評価基準を各プログラムが満たしているか
- 【注】点検のサイクルは認証評価のサイクルに合わせる。
- 点検レポートの評価は、執行部が行う。

貴学のガイドラインとアセスメントポリシー



福岡工業大学成績評価ガイドライン（1）

（趣旨）

- 本ガイドラインは、大学学部の教育課程における授業科目について、成績**評価の基準を統一**することによって、評価の**客観性と適切性を担保**し、教育の質保証を図ろうとするものである。
 - 評価は組織的に行うという宣言と読める。

福岡工業大学成績評価ガイドライン (2)

成績評価の基準表

評価	優		良	可	不可
評点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
評価基準	達成目標を理想的なレベルで達成し、より高度な内容を自主的な学修で身に付けている	達成目標を理想的なレベルで達成している	達成目標を標準的なレベルで達成している	達成目標を最低限達成している	達成目標を達成できていない

福岡工業大学成績評価ガイドライン (3)

ディプロマポリシーのカテゴリ化と評価方法の対応の例

ディプロマポリシー	カテゴリ	評価するための課題	成績評価の方法
A・C・D	専門力・ 教養力	・身に付けるべき学習内容を問う課題	・筆記試験(小テスト、レポートを含む)
B	倫理観・ 責任感	・身に付けるべき学習内容を問う課題	・筆記試験(小テスト、レポートを含む)
E・F	発想力・ 表現力	・ パフォーマンス課題 (プレゼンテーション、レポート、図表グラフなど)	・チェックリスト、科目による指標、 ルーブリック などを用いた評価
G・H・I	主体性	・ALにおける協働課題(グループディスカッション、グループワーク、PBLなど) ・ 学習ポートフォリオ (FIT-AIM)で自己省察を行う課題 ・授業外における主体的な学習の取り組みを促す課題	・ALを通じたグループ活動等での態度をその姿勢を図るための ルーブリック で評価 ・記入の分量および内容 ・授業外学習の時間および内容

福岡工業大学成績評価ガイドライン（4）

福岡工業大学主体性ルーブリック

	4 ファイナル・ステップ	3 サード・ステップ	2 セカンド・ステップ	1 ファースト・ステップ
自主的な課題への取組 G	授業で求められた課題を解決し(仕上げ)、さらに要求される以上に、当該分野に興味関心をもちながら、学習に 取り組むことができる 。	授業で求められた課題を自ら解決する(仕上げる)ことができる。	授業で求められた課題を解決するために、授業内外において、自ら工夫して学習に 取り組むことができる 。	学習者として、学習環境を整え、学習内容を理解しようと 努めることができる 。
自律的学習の習慣化 H	自らの学習への取組(目標設定や計画性、実施内容等)についての振り返りの内容を、次の学習への取組の改善に活かすことができる。	自らの学習への取組(目標設定や計画性、実施内容等)について振り返り、良い点や悪い点を見つけることができる。	授業で求められた達成目標を達成するために、学習の見通しを立てて、計画的に 取り組むことができる 。	学習者として、学習内容の範囲や内容について理解し、学習に 取り組むことができる 。
協働課題への取組 I	他の学生に教える、リーダーを務めるなど、学習コミュニティにおける貢献を果たしている。	学習コミュニティにおいて、学習を深めるための働きかけ(質問・意見表明)ができる。	自分の感想を発表するなど、学習コミュニティに参画する 意思を示すことができる 。	他者の話を傾聴し、学習内容を理解しようと 努めることができる 。

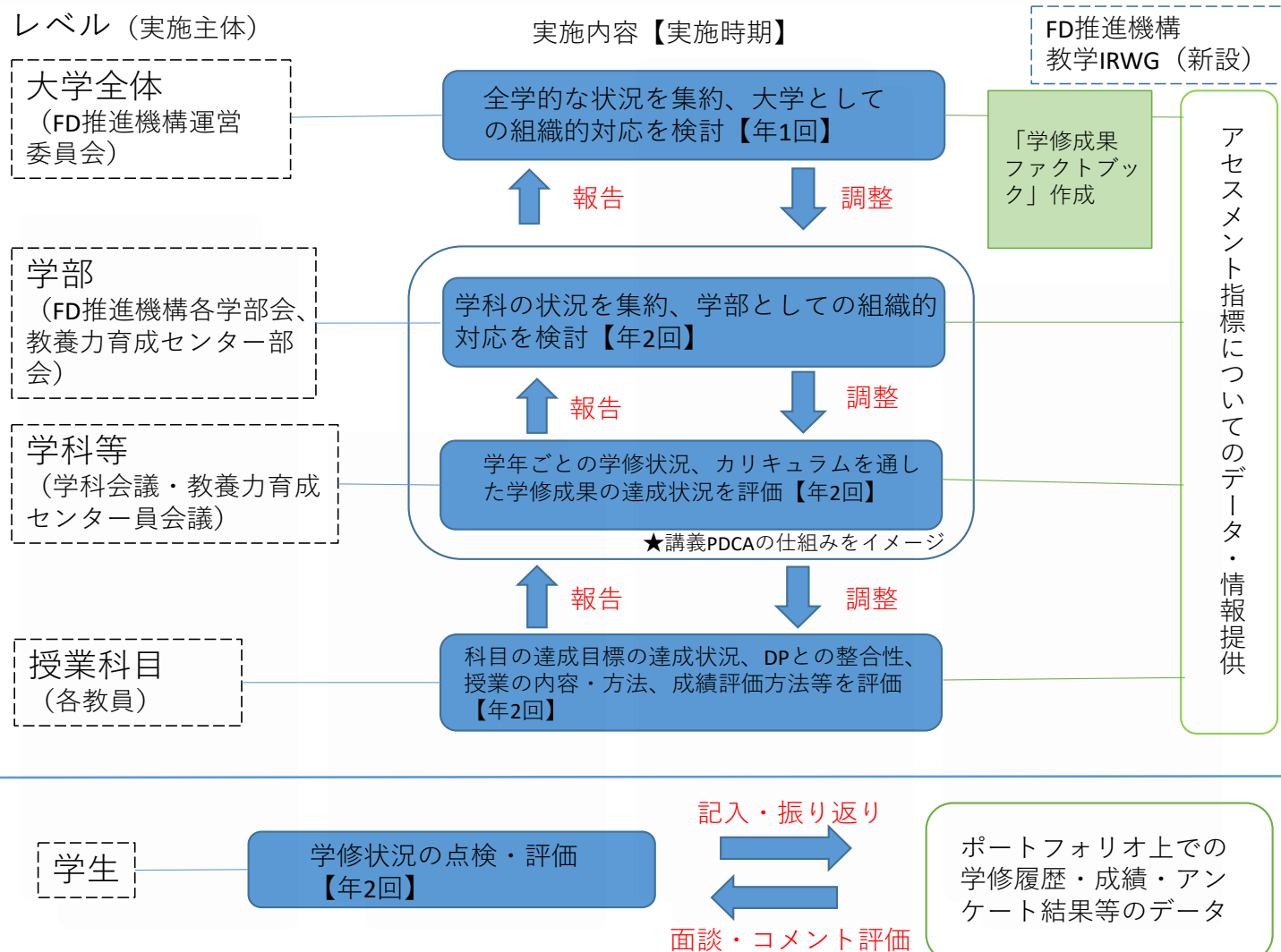
福岡工業大学アセスメントポリシー（1）

- 本ポリシーは、ディプロマ・ポリシーを満たす人材が育成できているか、カリキュラム・ポリシーに即した学修が進められているかの視点から、**大学、学部学科（カリキュラム）、授業科目、学生**のそれぞれのレベルでの学修成果を評価し、改善するための方針を定めたものである。
 - 学生のレベルを加えたのは興味深い。

福岡工業大学アセスメントポリシー (2)

レベル	アセスメントの項目と指標	
	CPIに即した学修が進められているか	DPの修得状況
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA(成績推移) ・成績評価分布 ・修得単位数 ・IRコンソーシアム学生調査(満足度調査学習行動調査) ・退学率・休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査 ・卒業生調査 ・企業調査 ・就職率 ・就職先状況データ
学部・学科 (カリキュラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA(成績推移) ・成績評価分布 ・修得単位数 ・退学率・休学率 ・IRコンソーシアム学生調査(満足度調査・学習行動調査) ・授業アンケート ・資格取得者数 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査 ・卒業生調査 ・企業調査 ・就職率 ・就職先状況データ ・DP達成度集計 ・主体性ルーブリック集計
授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布 ・授業アンケート ・学修履歴(ポートフォリオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・DP達成度集計 ・主体性ルーブリック集計
学生	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・学修履歴(ポートフォリオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究等の成績評価 ・GPA ・修得単位数 ・DP達成度集計 ・主体性ルーブリック評価

福岡工業大学アセスメントポリシー (3)



授業科目レベルの評価組織への提案

- 学科単位で設置される, 授業科目レベルの評価組織の構成員を以下の通りに規定することを提案する。
 - 2名 : 学科に所属する教員
 - 1名 : 他学部他学科に所属する教員
 - 1名 : 学問分野を同じくする他大学の教員
 - 1名 : 学科に所属する学生
 - 1名 : 学科の卒業生を多く受け入れる企業などの関係者

まとめ

まとめ

改善のスリー・ステップへの挑戦を！

1. 成績評価基準の策定と明示
 - 成績評価基準を評価の「ガイドライン」として策定し、全教員で共有することが必要。
2. 組織的な事後チェック
 - 同僚評価を核とする点検(モニタリングとレビュー)制度の整備, およびその実施方針(アセスメント・ポリシー)の策定が必要。
3. 第三者の参画
 - 他大学の教員(学外試験委員)による互助が必要。

ご清聴ありがとうございました。